

大阪府立大学総合情報センター報

第19号 2003年10月

Aurion

ア ウ リ オ ン

明日(ギリシャ語でアウリオン)に向けて知識の宝庫を活かす
情報の集積と発信のための総合情報センター



ブナカ・ゾン (故中尾佐助名誉教授撮影)

Contents

☆特集1 総合情報センター創立10周年を迎えて	P 2
☆図書の中のパンダ(総合科学部人間科学科 大形 徹)	P 8
☆ネットワーク時代の教育・学習システム環境(情報システム部)	P 9
☆特集2 図書館サービスがパワーアップしました	
新しくなった蔵書検索システム	P 10
Web経由の新しい図書館サービスについて	P 11
<ピックアップ情報>	P 16
表紙写真について/レポート作成は図書館のノートPCで!/入館システムの導入について/ Uホール白鷺の利用状況	

総合情報センター創立10周年を迎えて

ー過去から未来へー

副学長兼総合情報センター所長
姫野 洋司



総合情報センターは、旧中央図書館と計算センターを合体させ、大ホールを併せた先端的な「情報のセンター」として平成5年、オープンしました。当センターは学術情報の学内の拠点として、国際化・情報化時代の教育・研究の活性化・高度化に貢献し、また、府民の方々の生涯学習や文化的ニーズに応える場として、快適な環境を整え、地域社会の発展に役立つことを大きな目的としています。

総合情報センター学術情報部(図書館)ではオープン時から旧中央図書館時代に要望の強かった平日の開館時間延長や府民の方々への図書館資料の閲覧・貸出サービスを実施しています。さらに、平成11年からは日曜開館を開始しました。また、工学部・農学生命科学研究科・総合科学部・先端科学研究所の各図書室では電気錠によるほぼ24時間の開室が可能となるなど、サービスの充実が図られてきました。情報システム部では学内ネットワークの一層の整備・強化を行い、また、オープンスペースの拡充や情報コンセントの設置等、情報アクセスが容易にできるよう努めてきました。

十年ひと昔と言いますが、時代の流れはじつに速く、大学や総合情報センターを取り巻く状況は大きな変化を遂げてきています。大学の統合・法人化への動きやインターネット、電子情報化に代表される情報流通基盤や通信技術の急速な発展もそのひとつでしょう。

平成17年4月に予定されている、大阪府立大学・大阪女子大学・大阪府立看護大学の三大学の再編統合と法人化では、研究型大学として特色ある大学づくりや経営の一層の合理化・説明責任等が強く求められることになります。総合情報センターとしても学内の情報システムの整備や図書館システムの一元化、Web等を駆使したあらたな利用者サービスの開拓・充実も図らねばなりません。学生の方々と教職員にとってより一層魅力的な総合情報センターとなるよう努力を重ねますので、どうぞご期待ください。

総合情報センター歴代所長からのメッセージ

総合情報センターでは、平成5年の創立以来今日まで、5人の教員が所長を歴任しています。歴代所長から10周年を記念して寄せられたメッセージをご紹介します。

総合情報センター開設10周年に寄せて



金子 務

開設10周年と伺い、開設時に関わった者として深い感慨を覚えています。座みの苦しみというのでしょうか、開設時の苦勞をともにした、教職員の皆様

一人一人のお顔を思い浮かべ、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

広報誌「アウリオン」や「Uホール白鷺」など名付けのことや、中尾佐助資料整備などが草創期らしい楽しい思い出として脳裏によみがえります。

大学をとりまく環境は厳しいものがありますが、次の新たな10年に向かって確実な歩みを進められますよう祈念いたします。(平成5年4月～平成9年3月在任)

総合情報センター10周年を祝す



向阪 保雄

私が総合情報センター所長を命ぜられたのは、草創期の慌しさが去って、ある意味の安定期を迎えた時期だったように思います。それだけに、新たな

飛躍を模索する必要があり、とりわけネットワーク化に向けた取り組みが強く要請されていました。

情報システム部の先生方を中心に、多くの教職員の方々の協力によって、本格的なキャンパスネットワークシステム導入が実現したことは、本当に喜ばしいことでありました。

思い出は尽きませんが、今後も総合情報センターが教職員と学生のためによりよいサービスを提供されることを祈っています。(平成9年4月～平成11年3月在任)

総合情報センターの10周年おめでとうございます



天羽 均

私が所長を務めましたのは、ちょうど21世紀の幕開け、IT革命が叫ばれ、本学でも汎用機からパーソナルコンピュータによる分散処理システムへの転換、イン

ターネットによるネットワークへの対応に努力した時期でした。

さらに、図書室職員(司書)の総合情報センターへの服務の一元化により、図書館システムも含め、府大の情報基盤作りに明け暮れました。

センターの学術情報部・情報システム部スタッフの献身的な努力に、全学の暖かい理解と多大の協力が得られたことを何より感謝いたしております。今後とも、ますます豊かな情報空間としてのオアシスとなり、多くの叡智の集う場となることを願っております。

(平成11年4月～平成13年3月在任)

総合情報センター10周年を迎えて



伊藤 太一郎

総合情報センター10周年を迎えられて心より喜び申し上げます。私としては大学改革と総合情報センターの舵取りという大役をおおせつかったに

もかわらず、私の健康のために任期三ヶ月たらずの短い期間しかお役にたてずに残念に思っております。

これからは、三大学統合や独立行政法人化に向けて大変な時代ですが、教職員の皆様方におかれましては健康に留意されてご活躍されるときともに、総合情報センターが更なる飛躍をして発展されることを心より祈っております。

(平成13年4月～7月在任)

総合情報センターの将来像

総合情報センター情報システム部長
福永 邦雄

平成5年に開設された総合情報センターは、本年度で10周年を迎える。十年一昔とよく言われるが、まさしく一つのマイルストーンを通過し、新たな課題に向かって次の一步を踏み出していく区切りの年であろう。

この10年間に大学をめぐる環境は大きく変貌した。本学においても、平成17年4月に府立の3大学(大阪女子大学、大阪府立看護大学と大阪府立大学)の統合、大学法人化が予定されており、全学を上げて重大な局面に対応している。

総合情報センターの将来ビジョンについても、こうした状況のもとで3大学図書館協議会並びに将来計画委員会のもとに設置された学術情報センター(仮称)具体化専門部会において、そのあるべき姿について検討が重ねられている。

現在の総合情報センターは、平成5年、それまで中央図書館と計算センターに分かれていた機能を統合するとともに、整備充実することを目的に、建物をはじめ設備も一新して全学共同利用施設として開設したものである。この施設には、併せて1,200人収容の大ホール「Uホール白鷺」を備え、入学式や卒業式のみならず、大きなイベントも開催できる機能

を備えた施設としてオープンし、現在に至っている。

この間、社会の情報化が進み、高度情報化社会と呼ばれる時代に入るとともに、さらに進んで電子政府と呼ばれる情報化基盤を実現する勢いで進展してきた。この時代にあつて総合情報センターは、早くからこれらの変化に対応すべく図書館情報とコンピュータに代表されるデジタル情報処理システムが扱う電子情報を一元的に扱う方向性を示してきた。この点は大いに評価されてしかるべきであろう。

そこで10年を一つの区切りとして、これからの総合情報センターの姿について少し考えてみるが、ここでは、後述する「大阪府大学改革基本計画」(以下、「大学改革基本計画」という。)にあるテーマから「情報化時代にふさわしい図書館機能」と「学内情報化統合機能」のテーマに絞ってセンターの課題と将来像に思いを寄せることにしよう。

情報化時代の図書館機能については数多くの検討がなされており、主題が絞られてきている。当然のことながら、総合情報センターの図書館機能は大学の機能から演繹されるべきであり、その機能については大学改革基本計画で論じられており、これらを体现していくべき性質のもので

あろう。

大学における学術情報は、「学生のための学術情報」と「研究を目的とする学術情報」に少しずつ分かれてきている。本来は同一であったであろう情報が専門的、先端的な研究が進められるにつれて学生のための教養教育、専門教育において必要となる学術情報と研究用の学術情報が必ずしも一致しない中で情報の収集、保存さらには提供の問題である。近い将来、登録している学生にあって大学院生、社会人入学学生など24才以上の学生が半数以上を占めることになる日が近いと言われ、生涯学習の場としての大学の姿が求められている昨今、学生のための学術情報を用意するため、慎重な検討がなされるであろう。

一方では、学生は文字の形で情報を受け取ることから図とか画像、さらには音声・映像など他のメディアで受け取る方向に推移しており、そもそもこれから文字情報を主体にした書籍を用意することが学術情報を用意したことになるかといった問題も提起されている。また、ネットワークを介してウェブ上の情報をオンラインで見つける方が図書館に行くよりも便利で、時間が節約できると考える学生が増えてきており、多様な対応が考慮されていくであろう。このようになってくると情報活用のための基礎技術である「情報リテラシー」教育を改めて重視し、拡充すべきであるとの意見が現実味を帯びてくる。

もう一つは学術専門雑誌に代表される研究用の学術情報の取扱である。本学でも数多く購入されている電子ジャーナルが今後益々増大する。これらジャーナルにより提供される情報量の増加とそのアクセス権の増大要求に対して大学がどのように対応すべきか大きな方向性について検討がなされ、この分野についても電子化された図書館像が描かれるであろう。この電子ジャーナルの問題は、一つの大学ですべての電子ジャーナル、あるいはあらゆる分野の電子情報を備え提供することは難しく、そこには国公立の設置者を問わず大学の図書館は学術情報の目的のためには全部で一つという大きな原則が必要であり、その中にあって本学の図書館の役割をどうするか方向性が示されているであろう。

もう一つの学内情報化統合機能の話題について考えてみよう。情報化統合機能の基本は、大学が扱う情報をデジタル電子情報としてネットワーク上で保有し、「必要な人に、いつでも、どこでも、与えられた権限の情報にネットワークを介してアクセスできる機能」を提供することである。これによって、必要なところで、必要に応じて情報を入手し、処理加工できる環境を整えることにより、学術研究、教育の利便性を向上させること、また大学運営業務の効率化を図ることを目的としている。

3大学が統合する平成17年度以降は「大仙キャンパス」、「羽曳野キャンパス」、また「難波サテライト大学院教室」並びに将来「りんくうタウン」への移転が予定されている農学部・農学生命科学研究科の「りんくうキャンパス」と現府立大学

がある「中百舌鳥キャンパス」間を専用線で接続し、これを介して情報が透過的に見えるようにし、前述の学術情報、また教務学生情報など必要とする情報がキャンパスを選ばず扱えることはもちろんのこと、自宅からのアクセス、また国内外の大学の遠隔講義などの教育情報、さらには前述の図書館・学術情報などに自由にアクセスできることが、これからの大学にとっては必要不可欠となる。これらを実現するためにはマルチキャンパスを考慮した基幹ネットワークの構築、またネットワーク上で作動する教務学生情報システム、図書館情報システムなど多様なサービスシステムを稼働させる環境を整備することが必要である。またこれらのシステムの信頼性を保証するセキュリティシステム、さらにはこのシステムへのアクセスを容易にするポータルサイト(このシステムへのアクセス画面であるウェブページ)機能などを整備し、さらなる情報サービスを充実させると言うてよいであろう。

大阪府が平成14年12月に策定した大学改革基本計画においては、新生府立大学(仮称)が目指す将来像として、「豊かな社会につながる独創的・先駆的で高度な研究を推進する大学」、「幅広く深い教養に裏打ちされた“高度専門職業人”を養成する大学」、「“center of excellence”として大阪産業活性化に貢献する大学」、「地域はもとより、アジア・太平洋地域にも存在感のある大学」、「確かな経営感覚の下で、戦略的・弾力的に運営する大学」が掲げられている。

総合情報センターに関連する内容として、「学術情報センター(仮称)の創設と附属図書館機能の充実」においては、学内の図書館、情報システムの統合と統合的運用を行うとともに、学外にも開かれた情報拠点として、現行の大阪府立大学の「総合情報センター」を拡充し、「学術情報センター(仮称)」を創設する。同センターは、情報化時代にふさわしい附属図書館としての機能のほか、情報教育機能、情報システム科学研究機能、学内情報化統合機能、地域連携機能を備えた総合的センターとする。附属図書館については、情報化時代に即応した機能を発揮できるよう「学術情報センター(仮称)」に位置付け、その機能強化を図る。また、各研究科(学部)等の図書室を充実し、情報ネットワークの強化によって蔵書情報を共有するなど、全学の統一システムを構築することが謳われている。

新しい「学術情報センター(仮称)」にあっては、公立大学法人としての責務の一つとして、Uホールも含め、より多くの府民に利用していただける環境づくりが重要である。また、図書だけでなく、学内で得られた研究成果、またアーカイブ講義情報など教育研究について蓄積される知の資産とその利用提供について絶えず検討していく余地が必要であろう。

今後、さらに10年が経過した後、10年前を振り返り、ここに述べた将来の総合情報センター像が、期待どおりに実現し、大きな成果を上げていることを願って止まない。

総合情報センターにおける図書館サービスの10年

1. 清新の気に満ちた草創期

平成5年4月に総合情報センターがオープンした時点で、最も目立ったサービスの変化は新築成った建物そのものではなかっただろうか。アメニティーを重視した閲覧室は、従来に比して格段に明るくなり、利用者に対して新しい図書館を強くアピールしたといえるだろう。

汎用機ACOS-S3600を配した図書館システムが稼動し、利用者との接点における貸出・返却操作はバーコード読み取りによる機械処理となった。WindowsによるGUI環境が当然の現在の水準から見ると不十分ではあるが、コマンドベースの蔵書検索システムを提供したことは、当時あっては、やはり極めて大きな前進であったと言わねばならない。蔵書検索システムは、平成5年12月からは大阪府庁の「大阪府行政情報提供ネットワークサービス」(O-net24)と呼ばれるパソコン通信ネットワークを通じて学外にも提供された。具体的なサービスに目を転じて、雑誌のバックナンバーを除くほとんど全ての資料を実質的に開架の状態を提供し、アジア資料コーナーを設置するなど、清新の気に満ちた試みが実行された。府民公開も全国に先駆けたサービスとして注目を浴びた。またAV資料の充実と視聴用ブースの設置も忘れてはならない。

2. ネットワーク対応へ舵をきる

その後、平成7年は日本におけるインターネット元年と称され、ネットワーク社会といわれる状況が現実のものとなった。図書館システムも平成11年3月には、UNIXサーバを中心にすえたネットワーク対応型にリプレイスされた。これにより、蔵書検索システムのインターネットへの24時間公開やCD-ROMサーバによる二次情報データベースの提供、さらに、ILL申込、図書貸出状況照会、指定図書目録の閲覧などがWeb経由で可能となった。また、利用者カードと学生証が統一されたため、学生にとって常時携帯する必要のあるカードを1枚減らすことができたことも大きなサービスの変更といえよう。

平成11年6月から7月にかけて、新入生を対象にした授業「情報基礎」の1コマを図書館員が担当して、蔵書検索システムの操作法を中心にした実習を含む講義が行われ、利用者教育の側面で大きな1歩を記し、以後毎年同時期に実施されることとなった。

平成11年9月から翌平成12年2月まで日曜開館の試行を行い、平成12年4月以降は、夏季・春季休暇中を除く日曜日は原則開館することとし利用者の要望に応えた。

平成12年4月には、中尾佐助スライドデータベースをインターネット上に公開した。情報システム部の教員と学術情報部の司書の共同作業として、平成9年度以来取り組んできたプロ

ジェクトが実を結んだもので、総合情報センターホームページの特色あるコンテンツとして注目を集めた。

3. インターネット経由の情報流通

平成13年には、電子ジャーナルやWeb版のオンラインデータベースが全国的に普及する中で、本学でも導入を検討する機運が生まれた。数度にわたり説明会を開催し、学内利用者に現況を知る機会を提供した。

平成14年1月には、ISI社のWeb of Science(ただし、自然科学分野のみ)のトライアルを開始、4月からはCurrent Contents Connect、Journal Citation Reportsも追加した。平成11年にCD-ROMサーバの導入でスタートした本学におけるデータベースサービスは、この時点でインターネット経由のWeb版に軸足を移したことになる。その後、平成14年夏には「大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版」と「朝日新聞記事データベース」も導入した。平成15年4月からは、化学系のデータベースSciFinder Scholarもスタートさせ、現在に至っている。

一方、Springer社の電子ジャーナルについて公立大学協会図書館協議会を通じたコンソーシアム契約が可能となったので、平成15年1月からトライアルを実施し、4月には本実施した。Springer社とその傘下の出版社の電子ジャーナルのほとんど全てが閲覧可能となり、本学にとっては初の本格的電子ジャーナル導入となった。

平成15年3月には、図書館システムをリプレイスして多数の新たなサービスを導入した。指定図書推薦、購入希望図書推薦、レファレンスサービス、視聴覚室予約状況照会などが新たにネットワーク経由で可能となるなど、利用者が自分の端末から図書館サービスを受けることができるルートが一層増加した。

平成15年7月には、閲覧室入口に入退館管理システムを設置し、正規利用者の利用環境の維持向上を図った。

4. 図書館サービスの未来は?

以上を要するに、総合情報センターの図書館サービスは、汎用機を使ったシステムの時代からクライアント・サーバ方式のシステムでネットワークを活用する時代を経て、現在はネットワークを当然の前提として、電子ジャーナルやWeb版データベースを活用する時代に入ってきているといえよう。現在、開けつつある時代がどのように進展し、本学の図書館がそれにどのように対応してゆくかは、未だ明らかでない部分も多く、利用者の支援を得てこれから切り開いていくことになるのである。

情報教育システム10年のサービス変遷

平成5年4月、総合情報センターは、従来の附属図書館機能と計算センター機能が融合して、新しい組織として現在の建屋で業務が開始されました。旧計算センター機能を引き継ぐ情報システム部は、キャンパスネットワーク、情報教育システム、教育研究用情報処理システムの企画・立案・運用・管理を行っています。これら情報処理・通信システムのうち、学部生が主たる利用者である「情報教育システム」を中心に、総合情報センター発足以来10年のサービスの変遷を振り返ります。

平成5年4月、情報教育システムは学生用端末として実習室1に100台、オープンスペースに15台設置されました。OSはMS-DOSで、アプリケーションはBASIC、Fortran、C、SAS、ワープロなどが利用できました。この時代はダウンサイジングがキーワードで、汎用機中心からワークステーションによる分散処理への移行が進展する時期でしたが、まだ端末からtelnetコマンドで汎用機に接続し、汎用機上でプログラミング演習する科目も多く存在していました。基本的にはBASIC、Fortran、Cのプログラミング言語による数値解析、データ処理が中心で、一部の科目ではSASによる統計解析が行われていました。情報処理教育のためのカリキュラムが少ない学部でも、大半の学生が何らかの情報処理教育を受けていることがこの時代の時間割上から見て取れます。ネットワークは、FDDI(100Mbps)が総合情報センター館内に敷設され、学内の一部の建屋と結ばれた実験的LANとして、学内ボランティアにより運用されていました。対外的にはORIONS(大阪地域大学間ネットワーク)に加入してインターネットに相互接続していましたが、通信速度は64Kbpsで、今から思うと極めて貧弱な状況でした。

こうした中「一般情報処理教育」のあり方について理系文系、情報処理の専門非専門を問わず、すべての学生に情報処理に関する基礎教育を行う必要性が強調されてきました。

平成9年度から全学の1回生を対象にコンピュータリテラシー教育、ネットワークリテラシー教育等の基礎的な一般情報処理教育が新たに実施されることが決定されました。理系文系を問わず、全分野の学生を対象に全学共通科目として実施されています。前期は「情報基礎」、後期は「情報基礎演習A」または「情報基礎演習B」のカリキュラム体系で、約1200名の1回生全員が情報教育を学んでいます。指導体制では、一般情報処理教育に関わる担当教員として各学部はもちろんのこと、先端科学研究所及び総合情報センターからも参加し、指導に当たるようになりました。その他、TAによる学習支援体制が実現し、授業時間に教員が行う演習指導の支援を行う演習補助担当のTAと、オープ

ンスペースに常駐して学生の自習を支援する自習支援担当のTAが実現しました。

一般情報処理教育の実施に伴い、平成9年4月、新しい情報教育システムが稼働しました。学生用端末(OSはWindowsNT4.0)とサーバをネットワークで接続したクライアントサーバ環境です。パソコンは実習室1に150台、オープンスペースに26台設置しました。一般情報処理教育専門委員会では、約1200名の1回生に対する情報処理教育を効果的、かつ効率的に行うため、一般情報処理教育用テキストとして「印刷テキスト」と「電子テキスト」を並行して開発しました。平成9年4月、新学期から1回生全員にIDを発行して「情報基礎」受講を条件に電子メールの利用が許可されました。当初、電子メールの利用は低調でしたが、1年を経過してインターネット利用に対する要望が急速に高まり、「情報基礎」科目が受講できなかった3回生以上の学生には、平成10年4月「オープンスペース利用のためのオリエンテーション」を開講し、ネットワークを利用するときのモラル、ネチケットなどの情報倫理に関する特別講義を実施しました。受講生にIDを発行することにより、全学部生がIDを所有し、電子メールをはじめとしてインターネットが利用できる環境になりました。

平成11年4月、学内各建屋間を光ケーブルで結ぶキャンパスネットワークが稼働し、対外接続はORIONS回線(6Mbps)と商用ISP回線(1.5Mbps)の利用が可能になりました。同時期、学生用端末数の不足に対応するためオープンスペースに23台、図書館閲覧室に20台を増設し、自習用に自由に利用できる端末が、既存の台数と合わせて69台構成になりました。

平成13年4月、情報教育用システムを更新しました。これまで実習室1と実習室2では、それぞれ別のシステムを独立して運用していましたが、効率的な運用を目指して「情報教育PC/WSシステム」として統一し、一元管理ができるシステムにしました。さらに、学生用端末数の不足に対応するため、学部・学科の協力を得て工学部、農学部、経済学部、総合科学部にサテライトホールを設置しました。図書館閲覧室では土・日曜日および夜間の開館延長時も端末の利用が可能になりました。学生用端末(OSはWindows2000)は実習室1に150台、サテライトホール等に196台導入し、情報教育環境基盤を整備しました。

平成13年11月、電話回線を通してPPP(Point to Point Protocol)により自宅等から「情報教育PC/WSシステム」に接続するサービスを、平成14年7月には自前のノートパソコンを図書館閲覧室設置の「情報コンセント」経由で「情報教育PC/WSシステム」に接続するサービスを開始しました。

中尾佐助資料10年の軌跡

○中尾佐助資料の受贈と中尾佐助コーナーの開設

本学名誉教授故中尾佐助先生が遺された学術研究資料が、平成6年4月総合情報センターに寄贈された。ご遺族で本学総合科学部の平木康平教授よりの申し出を受け、金子務初代所長と農学部の保田淑郎名誉教授の尽力で受入が進められた。

同年の夏、搬入された資料を保田先生の指導によって仕分けし、初冬には梅棹忠夫氏をお招きし、公開講演会「中尾佐助と照葉樹林文化論」を開催するとともに、中尾佐助コレクション展「照葉樹林文化論の原風景」を行った。

平成7年2月には、旧蔵図書約3500冊、雑誌60誌を本学図書館検索システムに収録・公開し、中尾佐助コーナーが地下1階に開設された。(参照1)

○コレクションの特色

中尾佐助コレクションには、照葉樹林文化論を中心とする著書18点、論文や雑誌・新聞等の記事640点のほか、生涯で26回に渡る海外学術探検のオりのスライドや写真、記録ノート、計画書などのオリジナル資料類、研究活動を跡づける研究資料類、そして研究過程で参照されたであろう膨大な参照資料類が含まれ、探検資料はその特色をなしている。(参照2)

平成7年度には、著書を除く全文蔵のコピーを製本した研究用の館内資料が作成された。(参照3)

またこの年には、これらコレクションが著書・文献類、オリジナル資料類、研究資料類、参照資料類の4つに分類・整理され、中尾佐助コーナーに配置された。平成8年度にはこれらの総目録が出版され、関連諸機関に配布された。(参照4)

中尾資料を活用して照葉樹林文化論を展開しようとする照葉樹林文化研究会が発足し、中尾資料運用の担い手となっている。(参照5)

○中尾佐助スライドデータベース構築の試み

平成9年度には、日本科学協会の研究助成を受け、スライドデータベース化のためのプロジェクトがスタートした。コレクションには1955年のカラコルム遠征以降1984年の雲南調査までおよそ3万枚近くのスライドがあるが、古い年代のスライドは退色やカビ等による劣化が進んでいる。プロジェクトでは、これを電子化して保存を図るとともに、インターネット上に公開して貴重な学術資料の共有化を図ろうとした。限られた予算のなかで電子化の対象を1958年のブータン調査のスライドとした。これは、実験的にデータベース化を試みるのに適度な分量であるとして決められたが、当時鎖国状態にあったブータンの文化社会事情や照葉樹林地帯の植生などを知る上で資料価値が極めて高く、中尾佐助の著作と参照できる内容となっている。

2年間の助成によって、約1,300枚のスライドが電子化され、照葉樹林文化固有の語を検索語としてスライドに付与し、検索システムも構築されている。(参照6)

○ホームページの立ち上げ

平成11年4月には、本格稼働したキャンパスネットワークシステムによりホームページのコンテンツのテスト版が、平成12年4月にはそ

の検索システムも公開された。

ホームページの構成は、中尾佐助の紹介(年譜、海外探検調査歴、著作リスト)、中尾資料および中尾コーナーの紹介、そしてキーワードおよびブータン地図からのスライド検索サイトを準備している。キーワード検索では、中尾が著作の掲載写真に付した説明文や注記から切り出した用語とプロジェクトチームが付与した事物名称などから検索できる。地図からの検索では、ブータンにおける調査地点からの絞り込みが可能で、さらに調査行程から時系列にサムネイル画像を一覧することもできる。アクセスするには、大阪府立大学総合情報センター(<http://www.center.osakafu-u.ac.jp/>)から図書館のホームページを開き「中尾佐助スライドDB」をクリックするか、次のURLを直接指定されたい。(http://nakao-db.center.osakafu-u.ac.jp/)

○資料利用の動向

研究用の中尾資料は、TVや雑誌の特集でよく利用されている。探検家としての中尾佐助と照葉樹林文化論を提唱した植物学者としての中尾佐助を特集するものがある。いずれの場合も、編集者やカメラマンが来館して数日かけてテーマにあったスライドや資料を

探し出している。それぞれのマスメディアでの使用には著作権との関係もあるので、農学生命科学研究科の山口裕文教授(照葉樹林文化研究会代表)が相談に応じている。

また先に述べた全文蔵コピーをもとに編集した中尾佐助著作集(全7巻)が、近々北海道大学図書刊行会より刊行される予定である。

○今後の課題

中尾スライドのデータベース化はごく一部が処理されたに過ぎず、その後は業務として継続されていない。受贈してから10年も過ぎており、資料の劣化の進行が危惧される。これらのデータベースは本学が情報発信するのにふさわしい貴重な学術資料であり、スライドだけでも早急なデータベース化が必要である。全資料の電子化はそののち徐々に推進し、併行して利用者間情報共有システムの構築を進めるのが望ましい。(参照7)

(参照1) 所長対談中尾佐助コレクションめぐって「大阪府立大学総合情報センター報アウリオン」第2号(1994.9)

(参照2) 特集:アジア資料コーナーと中尾佐助コレクション「大阪府立大学総合情報センター報アウリオン」第3号(1995.3)

(参照3) 「中尾佐助著述集」大阪府立大学照葉樹林文化研究会、大阪府立大学総合情報センター編 1996.3

(参照4) 「中尾佐助文献・資料総目録:照葉樹林文化論の源流」大阪府立大学総合情報センター編 1997.3

(参照5) 「照葉樹林文化論の現代的展開」金子務、山口裕文編著 北海道大学図書刊行会 2001.9

(参照6) 中尾佐助資料における照葉樹林文化関連スライドのデータベース化と検索システムの構築について「総合情報センター年報情報」第5号(1999.3)

(参照7) 中尾佐助資料スライドデータベースの構築と利用者間情報共有への展望「レコード・マネジメント」第41号(2000.11)



標本を整理する中尾先生(1958)

図書の中のパンダ

総合科学部人間科学科 大形 徹

パンダをカバンにぶらさげている女子学生がいる。大学生も幼稚園なみだなどと思いつつ、「ジャイアントパンダは中国語で大熊貓・熊貓だけと猫熊ともいう。熊貓は熊みtainな猫、猫熊だと猫みtainな熊。パンダは猫よりも熊にみえるから猫熊の方がいいかも」といった話をした。天津出身の留学生に聞くと、「幼稚園で熊貓より猫熊が正しいと習った」という。実際、中国版『広辞苑』の『現代漢語詞典』1983年版には「熊貓・大熊貓」ではなく、「猫熊」で載っている。でも何か腑におちない…。そこで手許にある辞書類をひっくり返して調べてみたところ、上記とは全く異なった結論となった。調べた図書は20冊以上だが、その一部を紹介しよう。

○1869年にフランスの宣教師が四川省でジャイアントパンダの毛皮を発見。翌1870年に学名 *Ailuropoda melanoleuca* がつけられた。生きた個体は1936年にアメリカ人が捕獲してシカゴの動物園で飼育（『生きている化石』他）。○THE CONCISE OXFORD DICTIONARY OF CURRENT ENGLISH (初版1911年)では「panda, n. Indian racoon-like animal red bear cat. [native]」。これだとインドのアライグマみtainな動物。赤熊貓なので現在のレッサーパンダである。○『中華大字典』(1935年)では「熊貓。獸名。似貓而善升木」とあり、熊貓。猫に似てよく木にのぼるという。尻尾が長く明かにレッサーパンダである(挿図参照)。



熊貓

『中華大字典』熊貓(貓)の挿図
明らかにレッサーパンダ



天王寺動物園 レッサーパンダ
(撮影 大形 徹 2003. 8. 3)

○『大漢和辞典』(初版1963年)熊貓では①に『中華大字典』を引用。②に「怪獸の名。新疆に産し、極めて稀に存し、體甚だ巨大。分類上、何類に屬するか未詳」という。パンダはすでに発見されているが怪獸扱い。○1973年になっても『岩波中国語辞典』(初版1963年)にはxióngmāo(熊貓)の項目すらない。○1972年第3版(1967年初版)の『研究社新英和中辞典』pandaは「パンダ しろうろくま」。びったりの訳語だが誰も使わない。○前掲『現代漢語詞典』では猫熊のみ。○『漢語大詞典』(全12冊1986年)では熊貓と猫熊の両方で項目をたてるが、いずれにも熊貓・猫熊の語源、初出の文献例が示されていない。辞書としては失格?

辞書の類を並べるだけでも以下のように推論できた。当初、現在のレッサーパンダこそがpanda(パンダ)であった。これ



熊貓圖 白熊臥如馬

は木に登り、しっぽが長く赤色の熊みtainな猫(red bear cat)で、アライグマのような動物。実際、レッサーパンダはアライグマに酷似する。そもそもpandaの名称は「ネパール語のネガリャーポニャ(竹を食う者)『朝日=ワルース世界動物百科2』」らしい。少なくとも「しろうろくま」ではない。その後、ジャイアントパンダが発見され、これがpanda(現在のレッサーパンダ)と同科の別種とされたため、大きなpandaの意味でジャイアントパンダ(大熊貓)と呼んだのだろう。それにともない、本来のpandaは小さなパンダの意味でレッサーパンダ(小熊猫)と呼ばれるようになった。大熊貓が正式名称だが、たんに熊貓とも呼ぶようになった。だが「熊みtainな猫」ではなく「猫みtainな熊」なので猫熊の名称が生まれた。『脊椎動物分類学』(農業出版社、1982年)でも正式名称は猫熊である。でも誰もそう呼ばない。良心的な辞書はレッサーパンダのことを併記するが、最近の例えば中国の『新編小学生字典』(1999年、人民教育出版社)では熊貓を引いてもレッサーパンダは無視されている。実際、小熊猫をパンダの子どもだと思っている中国人も多く、高級タバコ「小熊猫」のパッケージにはジャイアントパンダの子どもが描かれている。レッサーパンダにとってみれば本来、自分こそがpandaであったはずなのに…。パンダといえば白黒という圧倒的な現実認識の前に辞書の記述も引きずられていくようだ。でもジャイアントパンダにしても、それじゃ自分の本当の名前は何なのだということになる。

フランス人が発見する前にもジャイアントパンダは当然、中国にいた。モリス「パンダ」やシャラー他「野生のパンダ」には熊貓、猴、白豹…の説があり悩ましい。『爾雅』釈獸では猴は白豹とされるが、晋の郭璞の注には「熊に似て頭が小さく、脚は短い。白に黒のまだら、よく銅・鉄や竹を食べる…」とされ、『字林』では蜀郡ににいるという。しかし、唐の白楽天の「猿屏賛序」では、猴は象のような鼻のバクと混同されてしまう。私がみた文献では「苦竹、杉より大にして、白熊臥すること馬の如し(五代前蜀、貫休(832-912)『禅月集』送僧入馬頭山詩)」の竹藪に棲む「白熊」がジャイアントパンダのようにみえる。前蜀は現在の四川省。貫休は墨竹で有名だが、水墨で白熊の絵を画いていれば、白黒ははっきりしたのと思う。

※ 文献の蒐集には学生諸君のお手を煩わせた。感謝したい。

ネットワーク時代の教育・学習システム環境

—— 自習用各種サービス 情報教育システムとして誰でも自由に利用できます ——

1. e-Learning自習システム講座サービス

e-LearningはWBT(Web Based Training)とも言われており、Web技術を利用した学習システムのことで、学習者はいつでも、どこからでも時間と場所に制約されず、ネットワークを利用して個別学習することができます。学習教材として下記のコースを開講しています。

(1) TOEIC英会話学習コース

1) 470点対策コース、2) 600点対策コース、3) 730点対策コース、4) リスニングコースで構成されています。

(2) 情報処理技術者試験コース

旧制度の第二種情報処理技術者試験の試験問題を解説付きで収録しています。

(3) ユーザ登録

上記コースを受講する場合はユーザ登録が必要です。「情報教育PC/WSシステム」で使用しているユーザIDとは独立し、この学習システムにのみ有効なユーザ登録です。Webブラウザから利用者自身による自由なログイン名とパスワードを申請し、交付を受けてください。

ユーザ登録手順。次のURLでInternet Navigwareのページを開きます。

<http://svwb中心.osakafu-u.ac.jp/inavi/>

- ・ [ログイン] → [ユーザ登録] → ユーザ名、パスワード等必要事項を入力後 → [登録]をクリックします。
- ・ ユーザ登録手順の詳細は次のURLを参照してください。

http://svport中心.osakafu-u.ac.jp/doc/eLearning_inavi.html

(4) 受講申請・学習手順

次のURLでInternet Navigwareを開きます。

<http://svwb中心.osakafu-u.ac.jp/inavi/>

- ・ [ログイン] → ユーザ登録で交付を受けたログイン名、パスワードを入力後 → [START]をクリックします。
- ・ 受講可能な講座一覧から受講したい講座を選択します。
- ・ 受講コース画面が表示されます。[学習]をクリックして学習を始めます。

2. 日英・英日自動翻訳サービス

日英・英日双方向の自動翻訳がWebベースで利用できます。ブラウザからホームページ翻訳、テキスト翻訳、ファイル翻訳などが利用できます。

(1) ユーザ登録

「情報教育PC/WSシステム」で使用しているユーザIDとは独立し、この自動翻訳システムにのみ有効なユーザ登録です。Webブラウザから利用者自身による自由なログイン名とパスワードを申請し、交付を受けてください。

ユーザ登録手順。次のURLで自動翻訳システムのページを開きます。

<http://svtreng中心.osakafu-u.ac.jp/>

- ・ [ユーザ登録・削除] → [ユーザ新規登録] →

ユーザ名、パスワード、リマインド等必要事項を入力後 → [登録]をクリックします。

- ・ ユーザ登録手順の詳細は次のURLを参照してください。

http://svport中心.osakafu-u.ac.jp/doc/eLearning_croad.html

(2) 自動翻訳

次のURLで自動翻訳システムのページを開きます。

<http://svtreng中心.osakafu-u.ac.jp/>

ユーザ名、パスワードを入力後 → [LOG IN]をクリック。

- ・ テキスト翻訳: 翻訳したいテキストを入力します。
- ・ Web翻訳: 翻訳したいWebページのURLを入力します。
- ・ ファイル翻訳: 翻訳したいファイル名を入力します。
- ・ 書庫翻訳: ビジネス文書等豊富な和文英訳例題文を収録。

3. ノートPC貸出サービス

図書館カウンターでは学生証の提示でノートPCを貸出します。閲覧室内でレポート作成等に利用できます。グループ研究室や地下1階閲覧室の「情報コンセント」に接続すればホームページの閲覧やメールが利用できます。利用法は図書館カウンターで貸出時に係員より説明します(P.16のピックアップ情報もご参照ください)。

4. 視聴覚室情報教育パソコンシステム

情報教育の授業や講習・研修等を支援するため、視聴覚室に無線LANシステムとノートPC45台を設置しました。利用者は特に指定しませんが、システムの利用申し込み資格者は本学教職員に限ります。学生自身が利用を申し込むことはできません。

5. その他のサービス

下記の接続サービスでホームページ閲覧やメールが利用できます。これらのサービスの利用には「PPP/情報コンセント」パスワード利用申請によりパスワードの交付を受ける必要があります。申請は、総合情報センター3階技術室で受け付けています。

利用法の詳細は以下のURLにあります。

<http://www.edu.osakafu-u.ac.jp/resource/ic/index.html>

<http://www.edu.osakafu-u.ac.jp/resource/ppp/index.html>

(1) 情報コンセント接続サービス

図書館2階グループ研究室、地下1階閲覧室に情報コンセントを設置しています。ノートPCを持ち込んで情報コンセントに接続するサービスです。

(2) PPP接続サービス

自宅等から電話回線を通して「情報教育PC/WSシステム」に接続するサービスです。

6. 質問・問い合わせ等は下記メールアドレスへ

questions@edu.center.osakafu-u.ac.jp

新しくなった蔵書検索システム

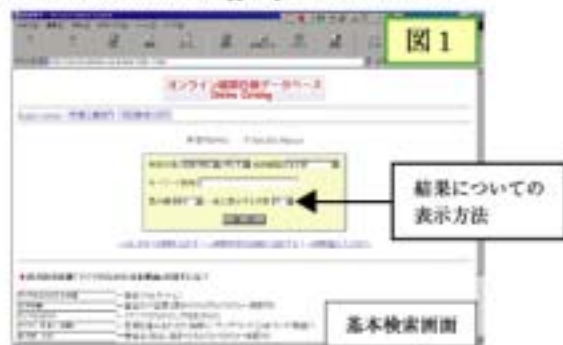
—— 今までの検索システムとの違いを中心に ——

いろいろ活用
してみよう!

◆ 検索システムへのアクセス方法

総合情報センターホームページ(<http://www.center.osakafu-u.ac.jp/>)から「図書館」→「蔵書検索システム」と進むか、もしくは次のURLを直接入力すると下の画面になります。(図1)

<http://www.lib.osakafu-u.ac.jp/opac/index-1.html>



◆ 学内・学外の資料が一つの OPAC で検索できるようになりました!

「学内OPAC」「NACSIS-Webcat(学外)」を片方または両方選択できます。ただし、両方選択している場合でも、学内で検索語がヒットすれば学外検索をしません。探している資料が学内になければ、「学内」のチェックをはずして再度検索してください。検索結果が学内・学外どちらなのか赤字で表示されます。(図2)



◆ 検索語の入力方法が変わりました!

(1) 基本検索

入力ボックスにタイトルや著者、キーワードなどを入力して検索します。複数の単語をスペースで区切って入力・検索すればAND検索になります。

(2) 詳細検索

一般的な検索語(例: 科学、Science、Journalなど)は該当件数が多くなりすぎるため、「条件を詳細に指定した検索」の方が便利です。

また、入力ボックス間もAND検索になりますので、より詳しい検索が可能になります。(図3)

いずれの検索でも検索する対象を選択できます。

「図書」と「雑誌」、「和書」と「洋書」を限定して検索することが出来ます。

⇒該当件数が多い場合は対象を限定して再度検索してみてください



◆ 検索結果一覧について表示の方法を選べます!

- 一度に表示できる件数が選択できます
- ソート順を選択できます

(図1~3)

◆ 資料の表示方法いろいろ

- 1つずつ表示する
一覧から1つを選択して表示する方法です。
- 簡略表示と詳細表示
一覧から複数の資料の所在を表示させるときに使用します。簡略表示は一覧と同じ情報に所蔵情報が表示されます(図4)。詳細表示は、資料の情報が一覧から1つずつ表示させるときと同じで、所蔵情報は簡略表示と同じです。



◆ 文献複写依頼・図書借受依頼のリンクボタンがつけました!

検索結果を利用して他館に文献複写や図書借受を依頼する事ができます。詳しくはp.12をご覧ください。

◆ 知っておくと検索に便利なワザ!

- 前方一致は検索語の後に*をつけて!
うろ覚えの図書名や、略誌名しか分からない雑誌名を検索するときなどに便利です
- シリーズへのリンクボタン活用
資料情報にシリーズ名があれば、クリックすると同シリーズで所蔵している資料が表示されます。
- 著者への検索リンク
資料情報でリンクボタンのある著者名をクリックすると、詳細検索画面に移り著者名がセットされます。検索すると同じ著者の著書が表示されます。

検索各画面に表示されている「ヘルプ」や「この画面の見方」などを活用して上手に目的の資料を見つけてください。

Web経由の新しい図書館サービスについて

—— オンラインリクエストサービスの紹介 ——

図書館システムの更新により、既存のWeb経由の図書館サービスをバージョンアップし、さらに新たなサービスを導入しました。これらのサービスは「オンラインリクエストサービス」として、総合情報センター図書館ホームページから提供しています。図書館の開館時間に左右されず、利用場所が制限されない非来館型図書館サービスとして、自分の生活時間にあわせて利用できるこれらのサービスを上手に活用してください。ここでは申請方法と教員・学生に共通するサービスについてご紹介します。

オンラインリクエストサービスの利用方法

1. 申請対象者

本学教職員、共同研究員、院生、学部学生、研究生
(利用者区分により、利用できるサービスは異なります)

2. 申請方法

オンラインリクエストサービスを利用するためには、事前に申請が必要です。「Web経由図書館サービス申請書」(総合情報センター図書館ホームページ上のPDFファイルからプリントアウトするか、図書館カウンターで請求してください)に必要事項を記入して、申請者本人が図書館カウンターへ提出してください。

<注意事項>

- ・本人の捺印がないものや携帯電話のメールアドレスは受け付けできません
- ・教員以外の方が公費で文献複写・図書借受の依頼をされる場合は、担当教員のご氏名・捺印も必要です
- ・申請時には、学生証・教職員証など本人確認できるものを必ず持参してください
- ・申請書はコピーして控えを必ず保管してください

申請後、土・日・祝日を除く3日後までに電子メールで仮パスワードを連絡しますので、パスワードを変更してから利用開始してください。

3. ブラウザ

オンラインリクエストサービスは、Netscape 4.0およびInternet Explorer 4.0以上のブラウザでご利用ください。

4. パスワードの管理

パスワードは定期的に変更してください。6ヶ月以上変更されないと変更要求のメッセージが表示されます。パスワードを忘れた場合は、再申請してください。

パスワードは、半角6文字以上10文字以内で2つ以上の数字または特殊文字(¥, #, - など)を組み合わせてください。なお、大文字・小文字は区別されます。

5. 各サービスの利用方法

総合情報センター図書館トップページの「オンラインリクエストサービス」メニューから利用したいサービスをクリックします。

利用者認証画面になりましたら、利用者IDとして、学生証番号またはライブラリーカードの番号の先頭10桁(末尾の数字は除く)を入力してください。なお、文献複写/図書借受依頼および視聴覚室予約状況照会の手順が異なりますので、p.12以降の各サービス案内をご覧ください。

オンラインリクエストサービスの利用が終わりましたら、「申し込みを終了する」ボタンを押す、あるいはブラウザを終了するまでは、同一利用者の申込や利用として認証されます。本サービス利用後は必ず「申し込みを終了する」を押すか、申込時に開いている全てのブラウザを終了させてください。

それでは、各サービスについて概要を紹介します。

貸出・予約状況照会サービス

総合情報センターや学部・先端科学研究所図書室で、現在借りている資料の書名と返却期限日、継続(貸出延長)の回数、他の利用者から予約が入っているかどうかを確認することができます。返却期限日が過ぎている資料については、返却期限日が赤色で表示されます。

また、総合情報センターで返却期限日を過ぎて返却した場合の貸出停止期日や自分が予約している資料名も表示されます。



文献複写/図書館借受依頼サービス

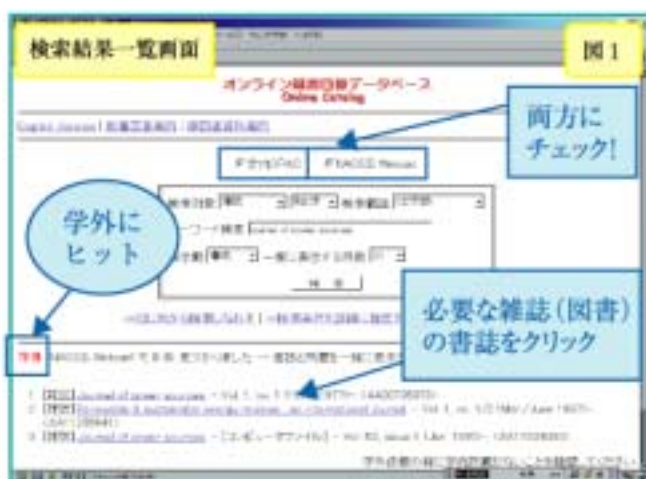
ご利用いただけるのは

- ・学外文献複写依頼・学外図書館借受依頼
→学部学生・院生・研究生・共同研究員・教職員
- ・学内文献複写依頼 → 教職員

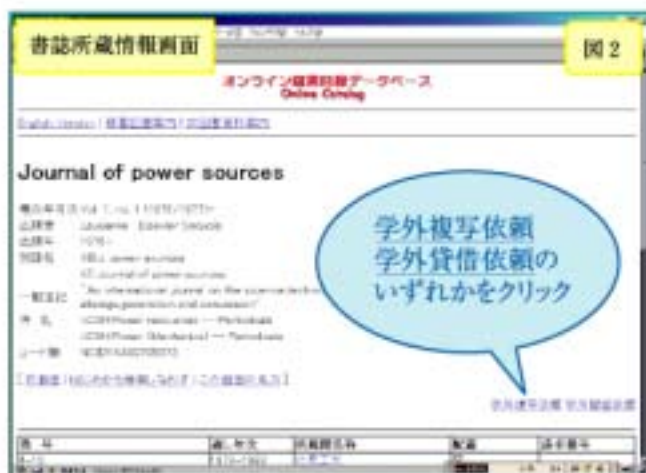
学外へ依頼するには

まずは、入手したい文献が掲載されている雑誌や図書を、p.10でご紹介した蔵書検索システム(OPAC)で検索してください。(これまで、図書館トップページの「文献複写・図書館借受・学内複写」よりログインし、雑誌名や書名を手入力する方法でしたが、今回、雑誌名や書名は検索結果よりセットされるようになりました。)

学内OPACにもNACSIS Webcatにもチェックした状態で検索し結果が「学外」の場合<図1>には、

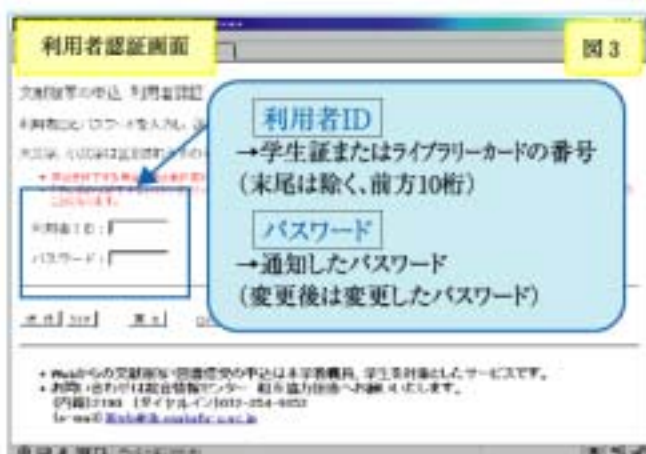


必要な雑誌や図書を選択し、その書誌情報を表示した画面より「学外複写依頼」または「学外貸借依頼」をご利用いただけます。<図2> (※注：検索結果一覧画面<図1>から依頼されると必要な雑誌や図書の情報が、依頼画面に

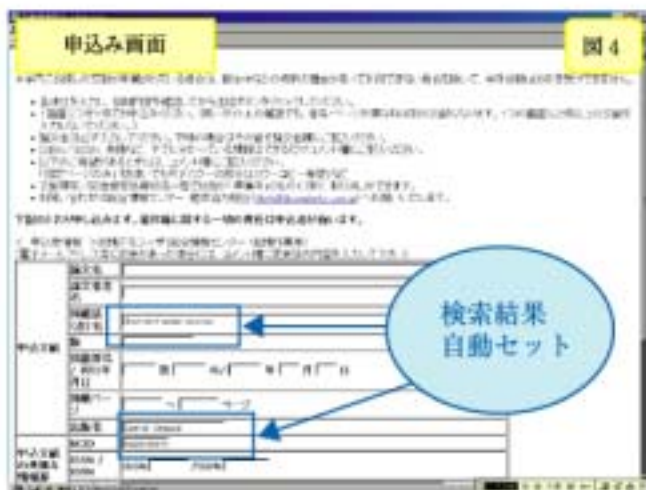


セットされません。)

「学外複写依頼」または「学外貸借依頼」をクリックすると利用者認証画面<図3>になります。認証画面で利用者IDとパスワードを入力し送信すると申込み画面<図4>になります。



申込み画面<図4>では、雑誌名ほかいくつかの項目に先ほどの検索結果が自動でセットされます。申込みに際しての注意点を充分にご理解いただき、記入漏れのないよう入力をお願いします。論文名や発行年、ページ数などが不明な場合は「不明」または「???'などの文字を入力します。



すべての項目を入力し送信すると、申込み完了画面<図5>に移ります。この時点でデータは総合情報センターへ送られます。

続けて申し込み場合は、同じ雑誌であればブラウザの「戻る」で申込み画面に戻り、別の雑誌であれば「検索画面に戻る」をクリックし、新たに検索をして同じ手順を繰り返します。

依頼状況を確認する場合は「依頼状況一覧を見る」をクリックします。

申込みを終了する場合は「申込みを終了する」をクリックします。

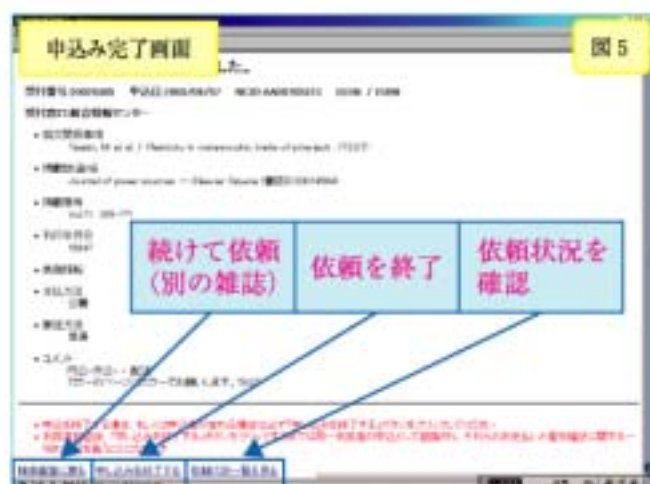


図 5

※注: 別の雑誌の文献を続けて申込み時には必ず検索をしてください。ブラウザの「戻る」で申込み画面に戻ると先の雑誌がセットされたままになります。また、そこで雑誌名を書き換えると他の情報がセットされません。

※注: 申込みを終える場合は必ず「申し込みを終了する」で完全に終了してください。同じパソコンを複数の方が使う場合には特に注意が必要です。完全に終了しないと、別の方が新たに申込んだ場合に最初にログインしたIDの方の申込みとなる場合があります。

※注: 依頼状況を確認する場合は「依頼状況一覧を見る」をクリックし再度IDとパスワードを入力後送信すると依頼状況一覧画面<図6>になります。



図 6

依頼状況一覧画面<図6>で状態が「準備中」であれば、Web経由で取り消しができます。『準備中』以外の場合は電話かメールでお問い合わせください。すでに他機関に依頼している場合には取り消しができないことがありますのでご了承ください。

学内へ依頼するには (教員のみ)

蔵書検索で総合情報センターに所蔵があれば、書誌所蔵情報画面<図7>より学内文献複写をご利用いただけます。『学内複写依頼』のリンクより申込み画面に移ります。所蔵巻号をご確認の上お申込みください。



図 7

サービス内容についての確認は

総合情報センター図書館HPの「オンラインリクエストサービス」→「文献複写・図書借受・学内複写」をクリックするとサービスについての案内画面になります。<図8>

こちらで利用方法・注意事項等をご確認いただけます。また、申請用紙の取出し、パスワード変更、依頼状況確認もここから行うことができます。



図 8

お問い合わせは

文献複写・図書借受についてご不明な点がございましたら、総合情報センター・相互協力担当までメール・電話等でお問い合わせください。

e-mail: illinfo@lib.osakafu-u.ac.jp
内 線: 2188 または 2190

今年度から新しくWebから利用できるオンラインリクエストサービスとして、購入希望図書推薦とレファレンスサービス申込のサービスが加わりました。

購入希望図書推薦の申込

購入希望図書推薦の申込が、Webからできるようになりました(従来の希望図書推薦票もご利用いただけます)。優先貸出希望の方には、電子メールでの到着連絡も選択できます。詳しい利用方法については、Webにヘルプ画面を用意していますのでこちらも参照してください。

1. 購入希望図書の推薦申込(図1)

推薦申込する前に、総合情報センターですでに所蔵している資料でないかどうか蔵書検索で確認してください。

購入希望図書ページの「Webからの推薦の申込」をクリックし、購入希望図書推薦の利用者認証画面から申込画面に入ります。



赤色の項目名は入力必須項目ですので必ず入力してください。また、各書店や出版社のホームページ、パンフレットなどで得た推薦図書等に関する情報は、できるだけ入力してください。

2. 購入希望図書推薦状況照会(一覧)

ご自身が推薦した希望図書の選定結果や購入決定となった資料の処理状況をWeb上で確認することができます。購入希望図書のページの「推薦状況照会」をクリックすると、利用者認証画面を経て照会画面になります。

状況が「未処理」のものだけ、利用者自身で申込を取り消すことができます。

3. 選定結果(図2)

各選定会議の結果について、利用者認証なしで、推薦申込者以外の人も見ることができます(学内限定)。購入希望

図書のページから、「最新の選定結果」または見たい選書
年月の「選定結果」のページを選択してください。



選定結果のページでは、「購入決定」「所蔵あり」「購入
できません(否決)」「保留」「品切/絶版」の各データ一覧
を見ることができます。

表示されるデータは、「書名・巻号・著者名・版表示・出版社・資料種別」です(推薦者名は表示されません)。

「所蔵あり」のデータには蔵書検索画面へのリンクがあり、書名をクリックすると所蔵情報がわかります。

4. 利用できるようになった資料(図3)



「購入決定」した資料が、利用できるようになりました「利用できます」のページへ掲載します。このページも利用者認証なしで見ることができます(学内限定)。

「書名」をクリックすると所蔵情報がわかります。また、購入決定資料が手配後、品切れまたは絶版のため入手できなかった場合ここに掲載します。原則として、掲載した日から3ヶ月間表示します。

レファレンスサービスの申込

レファレンスサービスは、カウンターや電話での受付のため開館時間中に限られていました。利用者の方の「知りたい時にすぐ申込できる」要望に応えるために、今年度からWebでの受付サービスを開始することになりました。

1. レファレンスサービスとは

レファレンスとは、参考調査とも言われ、利用者のさまざまな質問に対して、図書館資料を使って回答の探し方をサポートしたり、参考となる資料を提示したり、資料の利用方法などについてアドバイスするサービスです。

質問に対してその回答そのものを示すというよりは、利用者が回答に近づけるように手助けするサービスです。

2. 利用方法(図1)

Webによるレファレンスサービスでは、あらかじめ申し込みのフォームを用意しています。各入力フィールドにしたがって、わかっている事項をできるだけ詳細に入力してください。入力内容を省略しすぎますと、内容確認のやりとりで時間がかり回答が遅くなる一因となります。

申込をしたレファレンスの処理状況をWeb上で確認することができます(図2)。状況が「未処理」のものだけ、利用者自身で申込を取り消すことができます。状況が「回答」となっているものは、質問事項をクリックすると図書館からの回答をみることができます。

3. 利用上の注意

① 回答の期限について

利用者が回答の期限を指定した場合でも、質問によっては、期限に間に合わない場合もあります。特に、土・日・祝日は申込できますが、回答はできません。

② 受付できる調査事項について

各種資料の所蔵調査については、本学で所蔵がないものについてのみ受付します。申込前に必ずご自身で学内の蔵書検索をしてください。蔵書検索すればすぐにわかるような「～を所蔵していますか」というような質問や、大量の所蔵調査依頼については受付いたしかねます。

また、調査内容により受付できないものもありますので、Webでのヘルプ画面(申込画面または状況照会画面の右上にリンクあり)を事前に確認のうえお申込ください。

視聴覚室予約状況照会(Web版)

視聴覚室の予約状況をWeb上で確認することができます。このサービスは利用者認証は不要です。

1. 利用方法

総合情報センター図書館トップページまたは総合情報センター「施設案内」のページから学内限定でご利用いただけます。

「視聴覚室予約状況」ページから「施設予約」をクリックすると、まず、今週の予約状況が表示されます。次週以降の予約状況については、月表示に切り替えて、確認することができます。

予約済の場合、予約されている時間帯を表示します。予約状況は、祝日を除く月～金の1日1回更新します。

2. 予約・申込方法

ホームページ上や電子メールでの予約の受付サービスは行っていません。

予約や申込は、これまでどおり総合情報センターカウンターで行います。視聴覚室利用申込書に必要事項を記入、捺印のうえ提出してください。予約は電話(内線2190)でも可能です。

表紙の写真「ブナカ・ゾン」について

古都ブナカは、長い間ブータンの首都とされていた。二つの川の合流点に建つブナカ・ゾンは、白い壁に優美な装飾窓が印象的な古城だ。ゾンは城なのだが、政庁でもありまた僧院でもある。ひっそりとした佇まいは、確かにここが俗世から離れた場所だと言うことを感じさせる。



川べりの低い土地にあるブナカ・ゾンは、水害を受けることも多く、現存するゾンにはかなり復旧の手が入っていると聞く。写真は1958年当時の様子を知らせる貴重な1枚である。



■ ピックアップ情報 ■

レポート作成は図書館のノートPCで!

図書館では、学部学生および院生を対象にノートPCの貸出サービスを開始しました。学生証を提示してカウンターへ申し出ていただければ貸し出しますので、レポート作成等にご利用ください。

利用時間：月～金 9:00～閉館30分前まで

貸出台数：5台

貸出機器：ノートPC(Windows XP Professional)、
FDDドライブ、CDRWドライブ、マウス等

貸出条件：一人1日1台、3時間まで
予約や利用の延長はできません

利用場所：グループ研究室と閲覧室(2F,1F,B1F)

搭載ソフト：Word, Excel, Power Point (Office XP)、
ホームページビルダーなど

インターネットは学内・学外とも接続が可能ですが、共同利用端末のアカウントを持ち、情報コンセントのパスワードの交付を受けていることが必要です(無線LANの使用はできません)。

詳しくは、総合情報センターホームページ

(<http://www.center.osakafu-u.ac.jp/>)の「情報処理・ネットワーク」→利用案内の「図書館視聴覚室情報教育PCシステム運用法」をご覧ください。

入館システムが導入されました

総合情報センター図書館の閲覧室入り口に入館システムが導入されました。ゲートは2つあり、右は学生証専用、左は学生証・ライブラリーカード兼用となっています。必ず学生証(プラスチック製)またはライブラリーカードをお持ちください。学生証(ライブラリーカード)を忘れた方はカウンターへお申し出ください。

なお、学生証の端などが破損したままで読みとり機にかけると故障の原因となりますので、学生課で再交付等の手続きをお願いします。

Uホール白鷺の利用状況

(平成15年4月～平成16年3月)

年 月 日	行 事 名
15. 4. 6 (午前) 同 (午後)	入学式 (農・経・総) 同 (工・社)
15. 4. 7	工学部オリエンテーション
15. 4.10～15. 7. 3	経済学部授業公開講座 (木曜日・11回)
15. 7.16～15. 7.18 15. 7.22～15. 7.23	障害者問題論 (5日間)
15. 7.30 15. 8. 6、15. 8.20	大学ガイダンス
15. 9.13～15.10.11	府民講座 (毎週土曜日5回)
15.10.17	メキシコ大統領講演
15.10.24	屋外広告物講習会
15.11. 1～15.11.3	白鷺祭
15.12.25～15.12.26 16. 1. 5～16. 1. 6	障害者問題論
16. 3.23	学位記授与式

アウリオン 第19号

平成15年10月31日 発行

大阪府立大学総合情報センター

〒599-8531 堺市学園町1-1
TEL: 072-254-9152 FAX: 072-254-9939
URL: <http://www.center.osakafu-u.ac.jp/>

R100

古紙製本率100%製本施設を有しています